

# 社説

【2023.9.16】

神奈川

## オスプレイ墜落続く

オーストラリア北部のメルビル島で先月、訓練中だった米海兵隊の輸送機MV22オスプレイが墜落する事故が起きた。搭乗していた兵士ら計23人のうち3人が死亡、5人が重傷を負った。

ヘリコプターのように垂直離着陸できるオスプレイは、以前から安全性が懸念されている機種だ。米軍はMV22を沖縄県宜野湾市の米軍普天間飛行場に配備。陸上自衛隊は千葉

# まず一時飛行停止せよ

県の本更津駐屯地にV22を暫定配備中で、最終的に佐賀空港への配備を予定している。

米国防総省の副報道官は今回の事故を詳しく調査すると表明した一方、オスプレイの安全性について「自信を持っていない」と強調した。調査結果も出ていないのに何を根拠にした発言か不明だが、少なくとも、調査を尽くし安全が確認されるまでは飛行停止の措置をとるべきだ。

オスプレイの安全性を巡る米側、特に米海兵隊の認識は、これまでの対応から甘いと指摘せざるを得ない。昨年8月、米空軍は空軍仕様の

CV22でクラッチの不具合による事故が相次いでいるとして全機を一時飛行停止にしたが、米海兵隊はMV22の飛行を継続させた。

米空軍は、エンジンの一つとプロペラのローターをつなぐクラッチが何らかの原因でかみ合わなくなり、クラッチに不具合が生じた場合、機体を制御できず事故を招く恐れがある」とまで指摘した。一方で米海兵隊は問題を2010年から把握し、深刻なトラブルを起こさずに安全に運用できる手順がすでに確立され、パイロットを訓練しているなどという理由で安全性を強調していた。

米空軍が指摘した懸念は現実になっている。米海兵隊は昨年6月にカリフォルニア州でオスプレイが墜落して5人が死亡した事故の報告書をことし7月に公表。プロペラとエンジンをつなぐクラッチの不具合が原因とした。

この不具合はオスプレイ特有のもので、根本的な原因はいまだ不明のままだという。それでも米海兵隊はオスプレイの飛行を中止せず、部品交換などの措置で飛行の安全を確保していると説明している。安全に対する姿勢が、私たちとはあまりにもかけ離れている。